

筑豊小児科医会会報

Vol.190 2022.11



Contents

- ◇ 今月のトピックス
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2022年8月》
- ◇ 小児科関連勉強会のご案内
- ◇ 研修医のご紹介
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

今月のトピックス

11月は「児童虐待防止推進月間」です

児童虐待に関する相談対応件数は依然として増加傾向にあり、こどもの生命が奪われる重大な事件も後を絶たないなど深刻な状況が続いています。このような状況を踏まえ、国は、毎年11月を「児童虐待防止推進月間」と位置づけ、集中的な広報・啓発活動を実施しています。

令和4年度「児童虐待防止推進月間」の標語

「もしかして？」ためらわないで！ 189（いちはやく）

小児虐待防止委員会のメンバーを中心に意識啓発を図ることで、院内における「もしかして？」の相談・報告は着実に浸透しております。「日本一のみごころ病院」を合言葉に、地域の安心安全を支え続け、より一層の地域貢献を目指してまいりますので、今後ともご協力とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

【メディア掲載情報】

『ふくおか人物図鑑』に委員長の田中を取り上げていただきました。

ホームページ：<https://fukuoka-person.com/tanaka-04/>



飯塚病院 月間診療のまとめ 《2022年8月》

- 入院患者数 **115人** ●外来患者数 **1,108人** ●救命救急センター受診者数 **256人**
- 新生児センター入院患者数 **32人** ●分娩件数 **55件** ●手術件数 **4件**
- 主要疾患数（退院患者数：**98人**）

肺炎・気管支炎	15	低出生体重児	13	痙攣及びてんかん	7
急性胃腸炎	5	新生児呼吸障害・心血管障害	4	高ビリルビン血症及び黄疸	1
腸重積・腸閉塞	1	その他	52		

●8月紹介件数

小児科：77件			小児外科：4件		
①	宮嶋医院	7	①	大任町役場 住民課 衛生係	1
②	こどもクリニックもりた	5		こどもクリニックもりた	
	たなかのぶお小児科			田中医院	
	松尾ファミリークリニック			穂波整形外科医院	
⑤	津川診療所	4			
⑥	いいづかこども診療所	3			
	栗原小児科内科クリニック 他2件				

小児科関連勉強会のご案内

■ 第 341 回 筑豊小児科医会勉強会

●日 時：2022 年 11 月 17 日（木）18：30～20：00

●形 式：Web（zoom）配信

➡ 講演 1 18：30～19：00

「自然終息性小児てんかんの診断と治療」

飯塚病院 小児科 部長 岡松由記先生

➡ 講演 2 19：00～20：00

「CECTS を中心としたてんかん診療の考え方と専門医への相談のタイミング」

鳥取大学医学部 脳神経小児科 准教授 岡西徹先生

*事前登録が必要です。詳細につきましては案内状をご確認ください。

■ 第 45 回 筑豊感染症懇話会（第 342 回 筑豊小児科医会勉強会）

●日 時：2022 年 12 月 22 日（木）

研修医のご紹介

● 初期研修医 2 年目 ^{さのゆうか} 佐野友香

初期研修医 2 年目の佐野友香と申します。

私は現在産婦人科医を志望しており、新生児診療について学ぶため、NICU をローテーションさせて頂きます。短い期間ではありますが、精一杯頑張りたいと思います。ご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。



● 初期研修医 1 年目 ^{わだくるみ} 和田くる実

初期研修医 1 年の和田くる実と申します。

10 月 3 日から 7 週間、小児科で研修させて頂きます。小児は成人とは異なり、訴えが明確でないことが多く、診療が難しいと感じておりました。この研修期間に少しでも多くの小児と接し、今後の診療に役立てるよう精一杯勉学に励みたいと考えております。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



● 初期研修医 1 年目 ^{いとうえりこ} 飯藤依里子

初期研修医 1 年目の飯藤依里子と申します。

小児科ローテでは小児特有の疾患や対応はもちろんのこと、内科管理についてしっかりと学びたいと考えております。

基礎となる研修期間にたくさんの経験と学びを得られるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。



こどもの見守りを強化していち早く支援するためには

5月号では、新しくなったAI-CAPデータベース管理システムについてお話ししました。昨年発足したデジタル庁は「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を」をミッションとして、多様な幸せが実現できる社会を目指しています。

こどもの貧困や虐待、不登校、いじめなどの困難は実態が見えにくく、こどもに支援が届きにくいという課題があります。このため、個々のこどもに関する情報・データを、個人情報等の適正な取扱いを確保しながら活用して、困難な状況にあるこどものSOSを把握するとともに、能動的な「プッシュ型（アウトリーチ型）」「ワンストップ」の支援が実現されるよう、情報・データの連携の在り方等について検討されています。

【現状と課題】

① こどもに関わる情報共有の円滑化

異なる部署が個別に管理しており、必要な情報の収集に手間や時間がかかっている。

② 困難を抱えるこどものリスクの見逃し防止

虐待等の困難を抱えるこどものリスクは要因が複雑で見えづらく、断片的な情報では適切な把握が困難である。

③ 職員による適切なアセスメント

経験や知識等により、アセスメントや判断に差が生じてしまう恐れがある。

誰一人取り残さない支援の仕組みを構築する上で、これらの課題を認識し、市町村や保健医療を含めた支援機関等が連携を推進していく必要があります。最後に、デジタル庁実証事業に取り組む加賀市の宮元市長の言葉で締めくくりたいと思います。「こどもの環境を守り、立派に育てることは大人の責任である。」

小児虐待防止委員会 委員長 田中 祥一郎

＜AI-CAP 事務局へのお問い合わせ＞ TEL : 0948-88-8220（直通） FAX : 0948-88-28

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

映画「マイ・ブロークン・マリコ」を観ました。ブラック企業で鬱屈した日々を送るOL・シイノ（永野芽郁）が、テレビのニュースで親友・マリコ（奈緒）が自死したことを知るところから物語は始まります。マリコは子どもの頃から父親に虐待を受けていました。そんな父親に彼女を弔わせる訳にはいかない、彼女の魂を救いたいとの一心から、シイノはマリコの実家に乗り込んで遺骨を強奪、逃走し、遺骨を抱いて“ふたり”で旅に出ます。いくら何でも遺骨を奪うのはいかんやるとか、遺骨とのロードムービーは成立するん？などと始めは心配しましたが、マリコの壮絶な過去と二人の友情が丁寧に描かれ、心配は雲散霧消しました。久しぶりに映画を観て泣きました。

マリコは小柄な身体つきで、体中にアザを作って登校していました。友達はシイノだけでしたが、二人で公園で遊びたいと言っただけで父親に殴られ、行かせてもらえませんでした。そんな彼女は世間がイメージする『幸せ』がどんなものなのか分かりません。常に厳しい環境で生活していたので、その環境以外をイメージできなかつたのです。大人になっても暴力を振るう男性と付き合ってしまった、『幸せ』にはなれませんでした。彼女にとって、シイノだけが安心して帰れる家でした。マリコがシイノの膝を枕にして言うセリフを聞いて、泣きました。

虐待を受け続けた子は自尊心が育まれず、自分の価値を下げるのが日常になってしまいます。とても悲しい現実です。養育者から褒められたり、認められたりする経験がないのは、自分を測る物差しが無いのと同じなので自分のことがわかりません。マリコにとって自分はちっぽけで価値のないものでした。これまで、彼女のような境遇にある子の心情を、私はうまく理解できませんでしたが、映画を通して少しだけ感じる事ができたような気がします。シイノとマリコは救われるのか、気になる方はぜひ映画をご覧ください。原作の漫画もおすすめです。

最新の情報は 飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

